

りそなアジア・オセアニア財団
第13回環境シンポジウム
いとおしさと愛着
～未来の「ものづくり」を考える～

基調講演

いまなぜ 民藝か

鞍田 崇
kurata@meiji.ac.jp
<http://takashikurata.com>



いま？

いま?

2025



いま? 近代の「次の時代」

2025





日露戦争講和

1905

プラザ合意

1985

敗戦

1945

2025

TOWARDS NEXT PHASE



日露戦争講和

プラザ

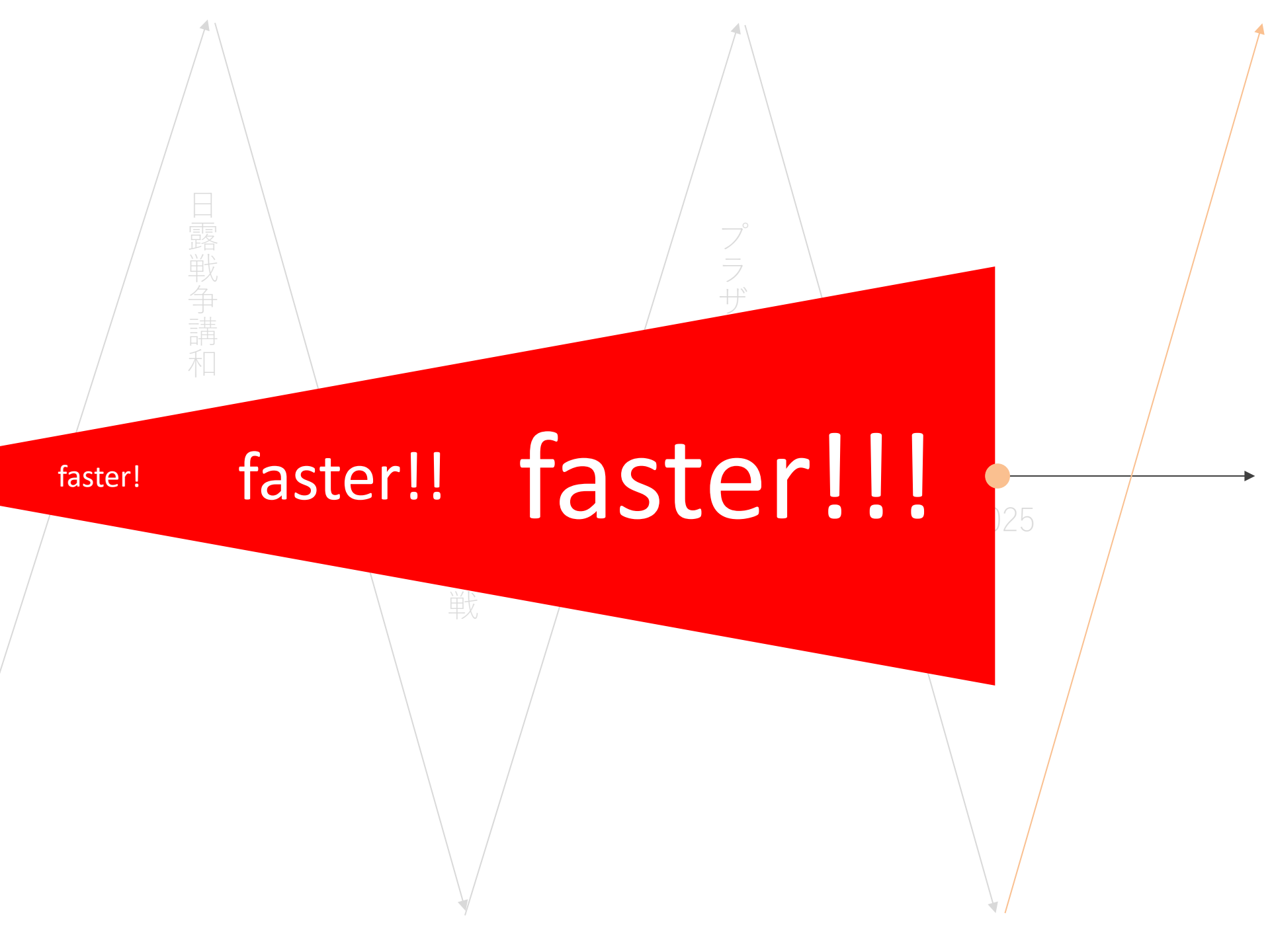
戦

faster!

faster!!

faster!!!

25



日露戦争講和

プラザ

戦

faster!

just toward faster!!!

25



日露戦争講和

S L O W +

1905

1985

プラザ合意

P R O C E S S

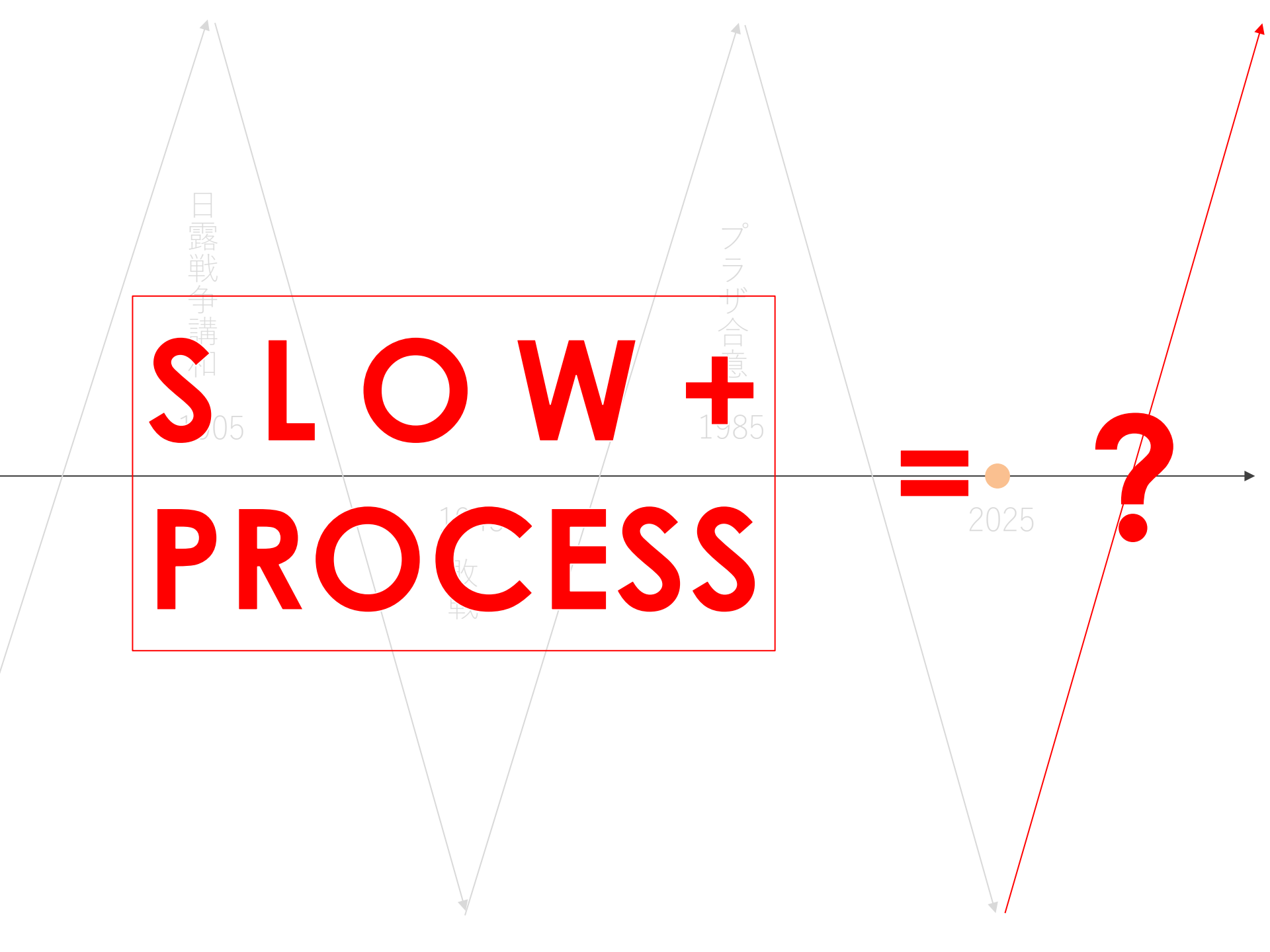
1995
敗戦

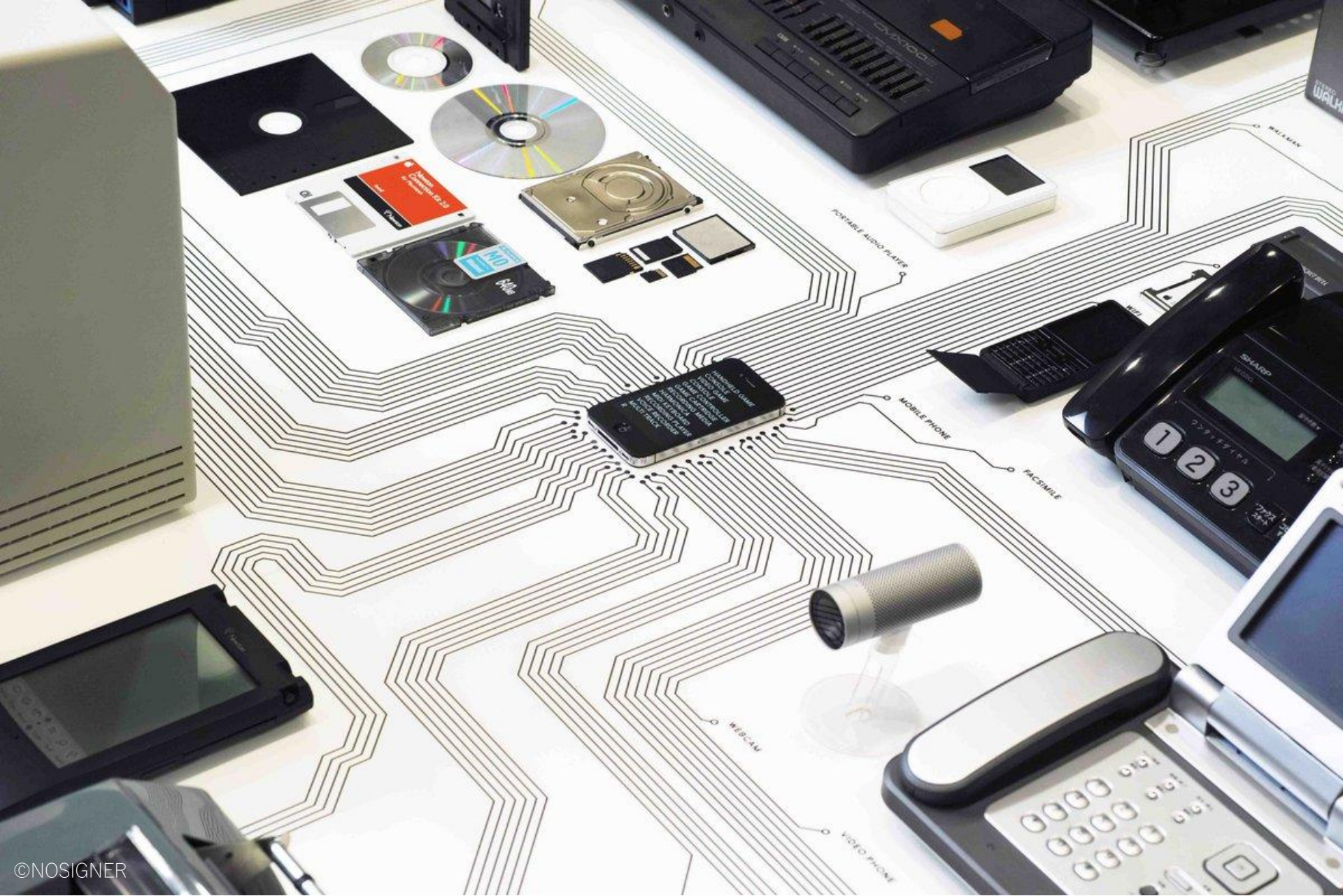
=



2025

?





©NOSIGNER

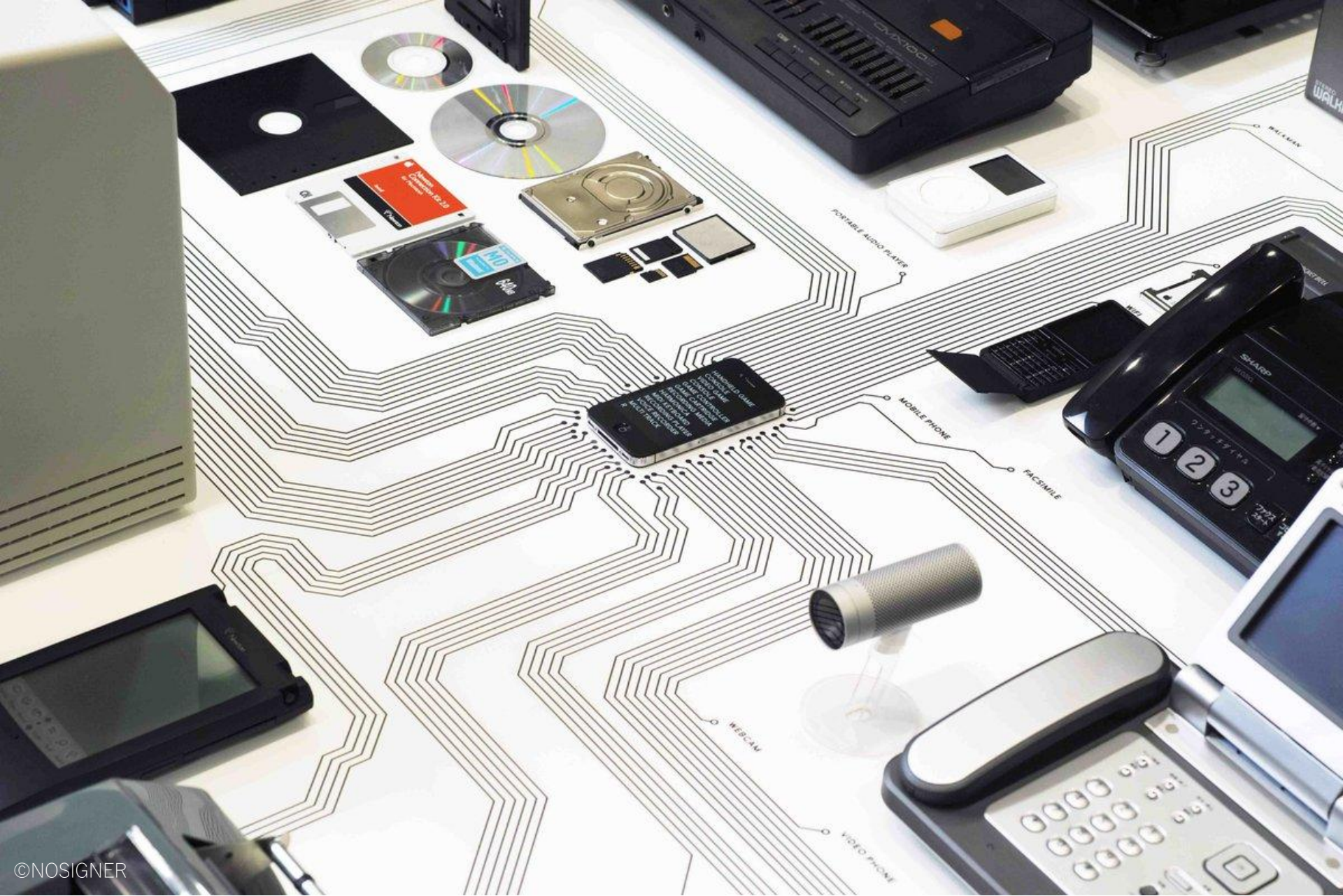
ギンザグラフィックギャラリー第355回企画展
「ノデザイナー かたちと理由」
GGG 2016.09.16-10.31



©NOSIGNER

ギンザグラフィックギャラリー第355回企画展
「ノデザイナー かたちと理由」

GGG 2016.09.16-10.31



©NOSIGNER

ギンザグラフィックギャラリー第355回企画展
「ノデザイナー かたちと理由」
GGG 2016.09.16-10.31

Compact Life 収納は、暮らしのかたち。

MUJI 無印良品

豊かさの新しいカタチ

深澤 直人 プロダクトデザイナー



Compact Life | MUJI 無印良品

豊かさの新しいカタチ

深澤直人 プロダクトデザイナー

www.muji.com/jp/compactlife/column002.html

豊かさの新しいカタチ

深澤 直人 プロダクトデザイナー



次第にかたちが失われ、
機能だけが残ってい
く動き ですね。今後、こうした状
況はどんどん進んでいくでしょう。その
結果、モノのない整然とした暮らしが可
能になるはずです。

Compact Life 収納は、暮らしのかたち。

MUJI 無印良品

豊かさの新しいカタチ

深澤 直人 プロダクトデザイナー



ただし、これが機能
や効率第一になると、
今度はあるおいが欠
けてしまう。

う る おい
っ て ?

SLOW +
PROCESS

日露戦争講和

1905

1975
日米安全保障条約
延長

プラザ合意

1985

=

うるおい
って？

2025

日露戦争講和

1905

民

ソ連との合意

1996

ALTERNATIVE

1945

敗戦

藝

2025



民
100
藝
藝



日本民藝
美術館設
立趣意書

時充ちて、志を同じくする者集り、茲に「日本民藝美術館」の設立を計る。

自然から産みなされた健康な素朴な活々した美を求めらるなら、**民藝 Fork Art の世界**に來ねばならぬ。私達は長らく美の本流がそこを貫いてゐるのを見守つて來た。併し不思議にも此世界は餘りに日常の生活に交る爲、却て普通なもの貧しいものとして、顧みを受けないでゐる。誰も今日迄その美を歴史に刻もうとは試みない。私達は埋もれたそれ等のものに對する私達の盡きない情愛を記念する爲に茲に此美術館を建設する。

必然蒐集せられる作は、主として工藝 Craft の領域に屬する。それは親しく人の手によつて作られ、實生活の用具となつたものを指すのである。わけて

も民衆に用ゐられた日常の雑具である。それ故恐らく誰の目にも觸れてゐる品々である。併し今日迄その驚くべき價値を反省した人は殆んどない。人々はかゝるものに如何なる美があるかをさへ訝るであらう。併し此美術館の成就に於て、凡ての危惧は一掃せられるにちがひない。それは新しき美の世界の示現として、豫期し得ない驚きを贈るであらう。私達が解して最も自然な健全な、それ故最も生命に充ちると信ずるものゝみを蒐集する。私達はかゝる世界に美の本質がある事を疑はない。従つて此美術館は雑多なる作品の聚集ではなく、新しき美の標的の具體的提示である。

「趣旨」、富本憲吉・河井寛次郎・濱田庄司・柳宗悦

日本民藝美術館設立趣意書、一九二六

立趣意書

時充ちて、志を同じくする者集り、茲に「日本民藝美術館」の設立を計る。

自然から産みなされた健康な素朴な活々し

た美を求めらるるなら、民藝 Folk Art の世界に來ねばならぬ。私達は長らく美の本流がそこを貫いてゐるのを見守つて來た。併し不思議にも此世界は餘りに日常の生活に交る爲、却て普通なもの貧しいものとして、顧みを受けないでゐる。誰も今日迄その美を歴史に刻もうとは試みない。私達は埋もれたそれ等のものに對する私達の盡きない情愛を記念する爲に茲に此美術館を建設する。

必然蒐集せられる作は、主として工藝 Craft の領域に屬する。それは親しく人の手によつて作られ、實生活の用具となつたものを指すのである。わけても民衆に用ゐられた日常の雑具である。それ故恐らく誰の目にも觸れてゐる品々である。併し今日迄その驚くべき價値を反省した人は殆んどない。人々はかゝるものに如何なる美があるかをさへ訝るであらう。併し此美術館の成就に於て、凡ての危惧は一掃せられるにちがひない。それは新しき美の世界の示現として、豫期し得ない驚きを贈るであらう。

私達の撰擇は全く美を目標とする。私達が解して最も自然な健全な、それ故最も生命に充ちると信ずるものゝみを蒐集する。私達はかゝる世界に美の本質がある事を疑はない。従つて此美術館は雑多なる作品の聚集ではなく、新しき美の標的の具體的提示である。

「趣旨」、富本憲吉・河井寛次郎・濱田庄司・柳宗悦

日本民藝美術館設立趣意書、一九二六

立趣意書

民
生命的

共感

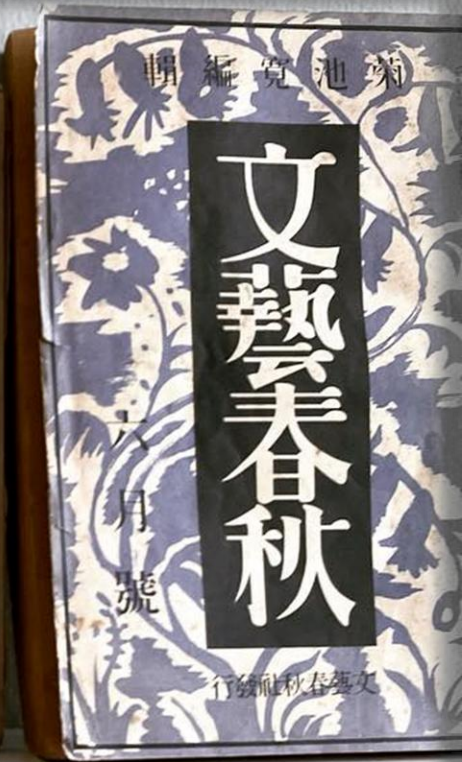
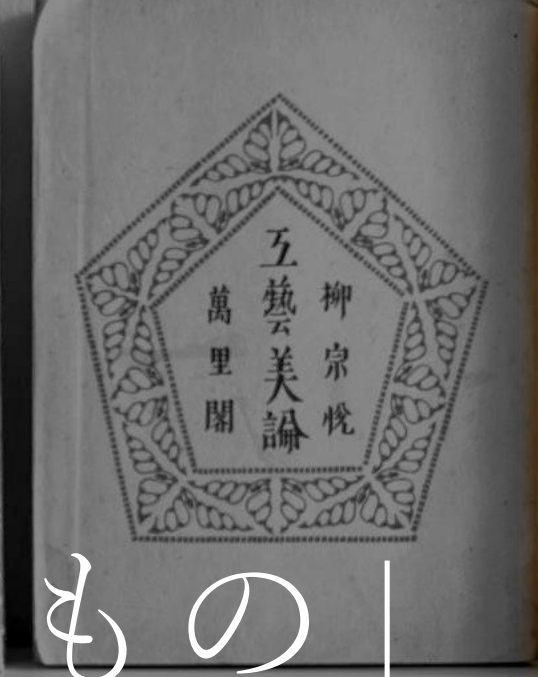
聖
雲



民藝とは何か

民藝叢書第一篇
柳宗悦著

昭和書房刊
昭和16年(1941)



何を「下手もの」
から學び得るか

1928



者の方に、美しい作がより多くあるか。それは性質上普通の品が、より多く用途と結合するからと答へ得ないでせうか。

一般に「美術的」と云ふ時、それは現實を遊離し實用の世界を超越したものと考へます。かくして美と用とを分離し、用を離れる時美に近づくと考へるに至つたのです。今の多くの工藝家は用を二次にして、ひたすら美のみを求めてゐるのです。ですが此のことは美術と工藝との混同に過ぎないでせう。實用を離れて工藝があり得るでせうか。用途に即さずして工藝の美はあり得ないのです。美を目的として作られるあの高價な品の多くに、工藝としての美が乏しいことに、何と不思議なものでしょうか。眞の實用品たることゝ眞の工藝品たることゝは同意義であるからです。用

何を 得たか

に叛いて美を迎へる時、用をも美をも失ふと知らねばなりません。

だが私は注意深く言ひ添へておきませう。茲に用篇云ふのは、單に物への用のみではないのです。それは同時に心への用ともならねばなりません。ものは只使ふのでなく、目に、手に觸れて使ふのです。若し心に觸れねば、如何に用を多くでせう。

丁度あの食物がきたな時、食慾を減じ從何がて營養をも減ずると同じなのです。用とは單に物的な謂のみではないの

です。若し功利的な義でのみ解するなら、私は形を**藝**ばず色を

用ゐず模様をも棄てゝいつてせう。だが**私**が**民**の用と呼ぶことは出来ないのです。心に仕へない時、物にも半仕へてゐな

何を 得たか

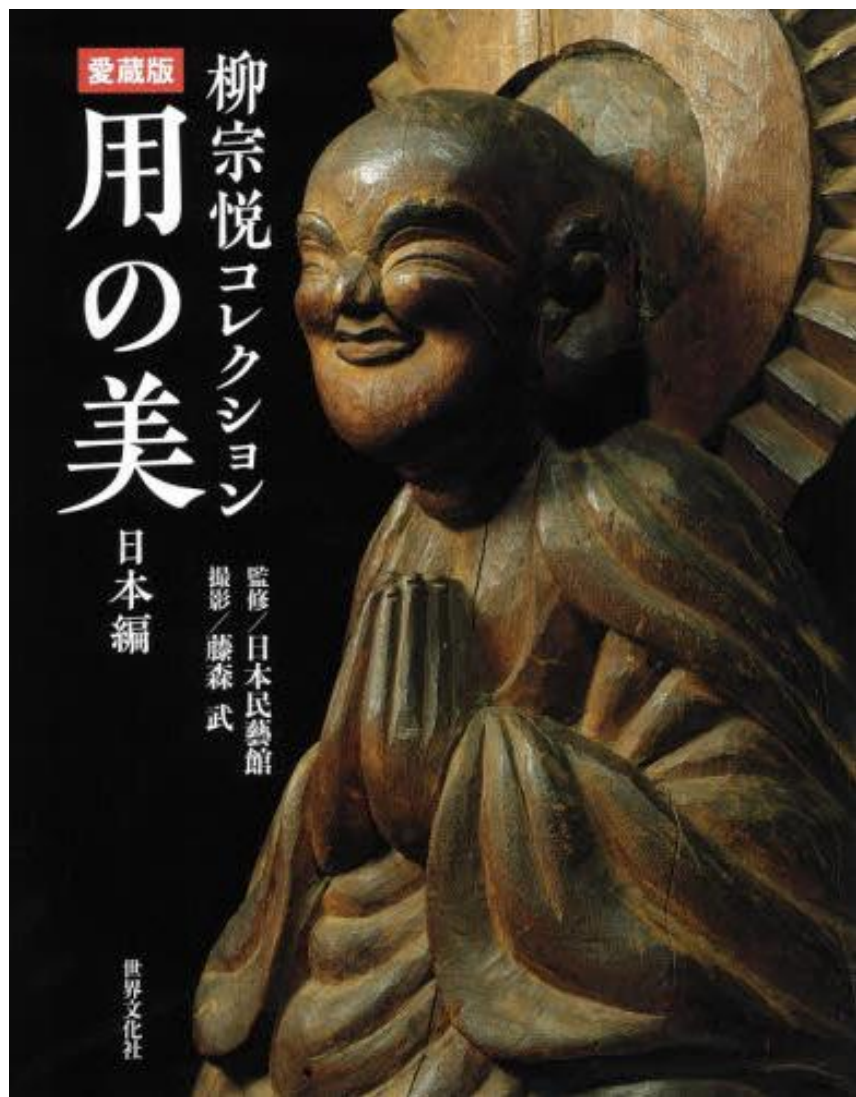
何 用
か と
は
?

民藝から何か
私が學び得たか

『民藝とは何か』第二篇

用

に即した



美

しいもの

だが私は注意深く言ひ添へておきませう。茲に用と云ふのは、單に物への用のみではないのです。それは同時に心への用ともならねばなりません。

三 民藝の美は何故健全なるか

民藝から何を 私が學び得たか

『民藝とは何か』第二篇

STEP #01

機能
効率

物への用：実用性
心への用：美しさ

うるおい？

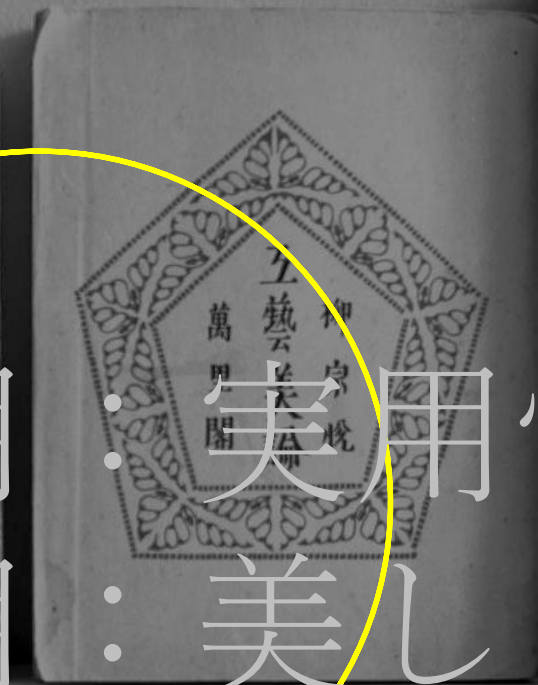


なぜ民藝品が美しいか、それが用品中の用品だからと云えないでしょうか。人々はそれ等のものを用いずしては、日々を暮すことができないのです。しかもそれは一般民衆の日常生活に最も多く関係してくるものです。私達は民藝品において**全き用の姿**を見
るのです。かくして用交ることにおいて、ますます美にも交ってくるのです。民藝品は自から美しい民藝品たる運命をうけているのです。用は美を育くむ大きな力なのです。

三 民藝の美は何故健全なるか

民藝から何 私が學び得た

『民藝とは何か』第二篇



物への用：実用性
心への用：美しさ
全き用



民藝から何を 私が學び得たか

『民藝とは何か』第二篇

三 民藝の美は何故健全なるか

心に仕へない時、物にも半(なかば)仕へてゐないのだと知らねばなりません。模様も形も色も皆用のなくてはならぬ一部なのです。美もこゝでは用なのです。用を助ける意味に於て美の價値が増してきます。

なぜ民藝品が美しいか、それが用品中の用品だからと云えないでしょうか。人々はそれ等のものを用いずしては、日々を暮すことができないのです。しかもそれは一般民衆の日常生活に最も多く関係してくるものです。私達は民藝品において**全き用の姿**を見
るのです。かくして用交ることにおいて、ますます美にも交ってくるのです。民藝品は自から美しい民藝品たる運命をうけているのです。**用は美を育**
くむ大きな力なのです。

三 民藝の美は何故健全なるか

民藝から 私が學び得た

『民藝とは何か』第二篇



物への用：実用性
心への用：美しさ



全き用



こんなに凄いのかと興奮しました。感動しすぎて、“ああ、いいなあ”とそんな言葉しか出てこない。民藝は生活道具で、道具はまず使い勝手のよさがあり、そこに美しさが揃って合格だという感じがある。でも、僕は、ここにあるものを見て、その上に立ちのぼる何かを強く感じたんです。

Design Meets Mingei

デザイナー深澤直人が日本民藝館の館長に就任。

深澤さん、

民藝はデザインですか？

『Casa BRUTUS』 vol.154 (2013)



こんなに凄いのかと興奮しました。感動しすぎて、“ああ、いいなあ”とそんな言葉しか出てこない。民藝は生活道具で、道具はまず使い勝手のよさがあり、そこに美しさが揃って合格だという感じがある。でも、僕は、ここにあるものを見て、その上に立ちのぼる何かを強く感じたんです。

Design Meets Mingei


デザイナー深澤直人が日本民藝館の館長に就任。

深澤さん、

民藝はデザインですか？

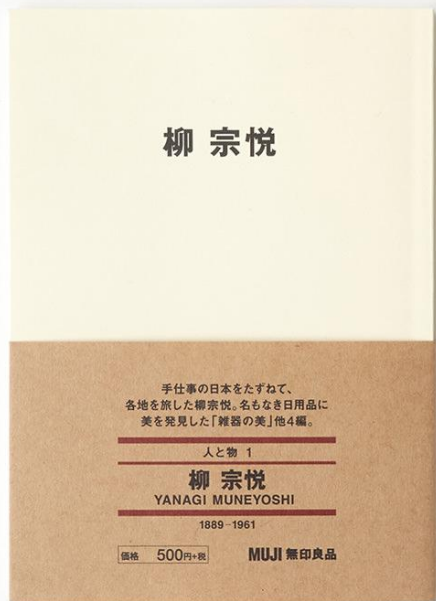
『Casa BRUTUS』 vol.154 (2013)





柳宗悦
「用と美」

『工藝』105号
日本民藝協会 1941年



或はここで「用」という言葉を「生活」という言葉に置き換える方が更によいかも知れぬ。生活は物心の生活である。すべての工藝は生活工藝でなければならぬ。・・・生活と工藝とは分つことが出来ぬ。一体となってこそ完き生活がある。

「用と美」より



物への用：実用性
心への用：美しさ



全き用
完き生活

用が生命である爲、用を果す時、器は一層美しくなつてきます。作り立ての器より、使ひ古したものは更に美しいではありませんか。「手ずれ」とか「使ひこみ」とかど、器に味ひを添へてきます。

三 民藝の美は何故健全なるか

民藝から何を 私が學び得たか

『民藝とは何か』第二篇

實用的な民器は貧しい場合でもどこかに健かさが
見えます。そこには活ける生命の美が
現れてゐます。

一 民藝の美は如何なる世界を示してゐるか

民藝から何を 私が學び得たか

『民藝とは何か』第二篇

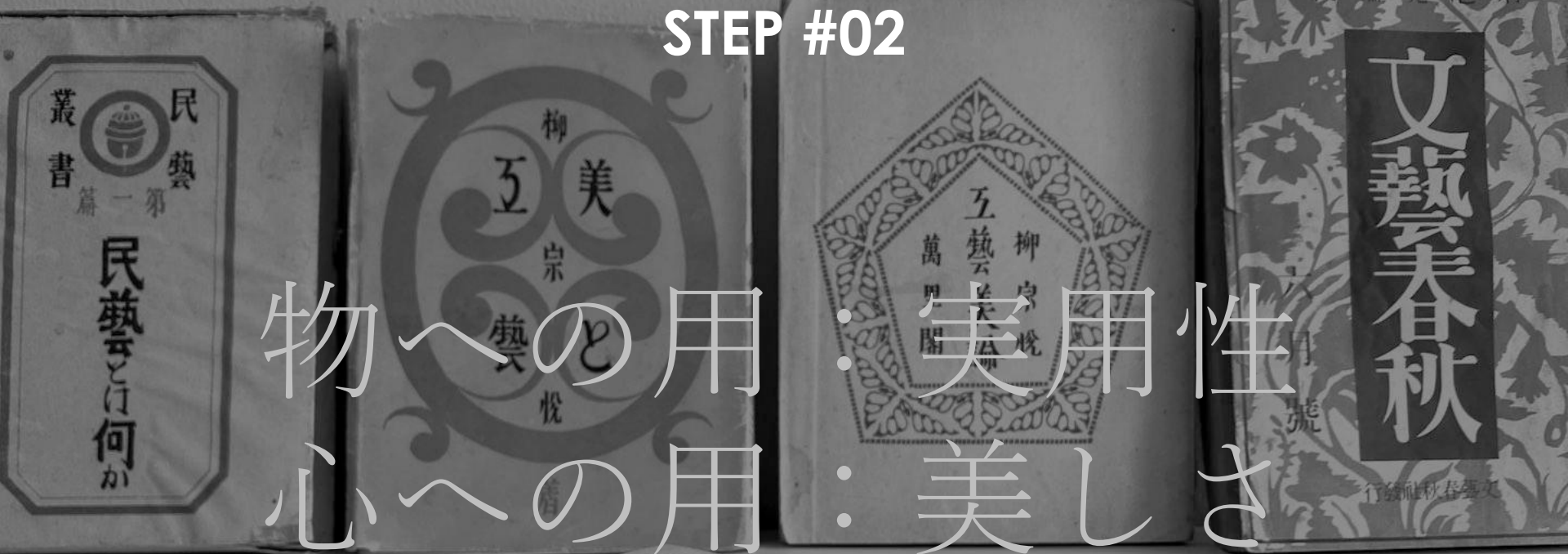


物への用：実用性
心への用：美しさ

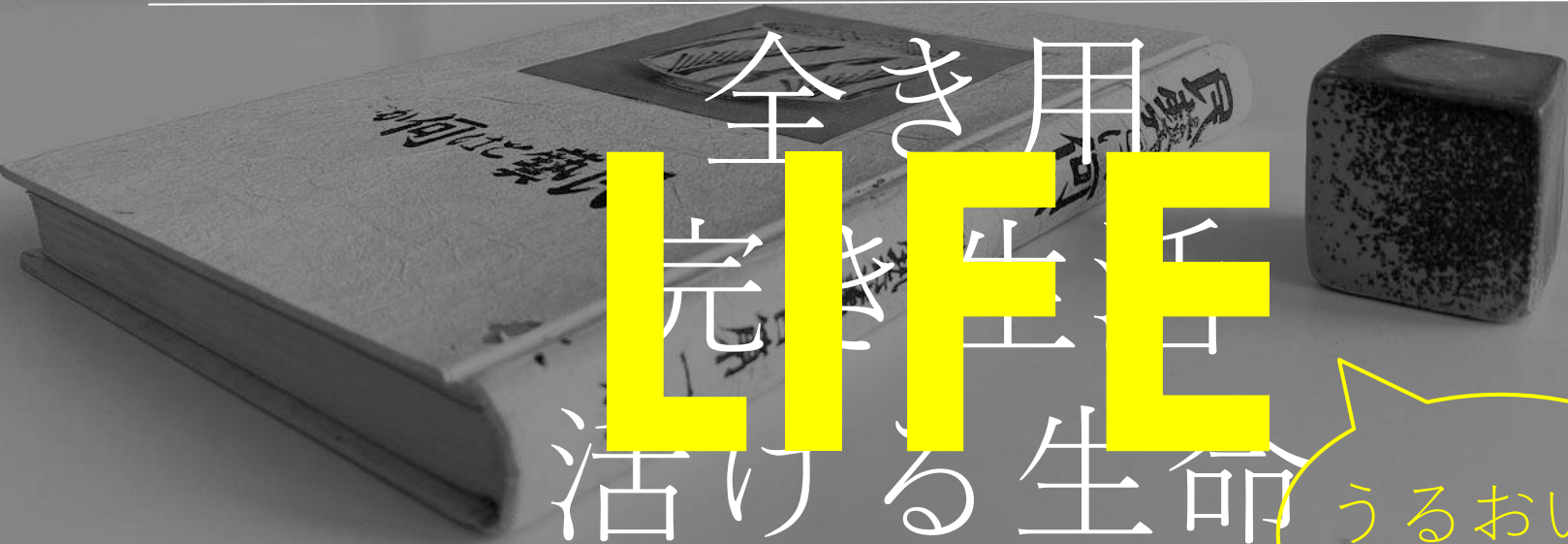


全き用
完き生活
活ける生命

STEP #02



物への用：美用性
心への用：美しさ



全き用

LIFE

活ける生命

うるおい!

作られるので
はなく生れる

柳宗悦

YANAGI Muneyoshi
1889-1961

工藝の道

柳宗悦著

そごりてあ刊

よき古作品を見られよ。如何に自然であり
素直であるかを。どこにも作り物と云ふ感
じがないではないか。美には生るゝ
美のみあつて、作らるゝ
美はないであらう。

柳宗悦「工藝の美」1927
『工藝の道』所収

濱田庄司

HAMADA Shoji
1894-1978

私は夏の畑に立ってみて、胡瓜、茄子、かぼちゃ、みんななっただまの自然で鮮やかで、私の焦点に関係なく、立派なものには参った。焼物でも作ったというより生れたというような品がほしい。これから轆轤をひくときは、ひきおわっても壺の口や、鉢や茶碗の縁が、まだ動きがやまないで延びつづけているように見えてほしい。

濱田庄司「自選陶器集について」1969
『無盡藏』所収

河井寛次郎

KAWAI Kanjiro
1890-1966

穀物や野菜は育てる事は出来るけれども、
作ることは出来ない。作る仕事は
ごまかすことも出来るが、
育てる仕事にはそれが出
来ない。農家が、農家の暮しが美し
くならないはずがない。

どんな農家でも——どんなにみすぼらし
くつても——これは眞當の住居だといふ氣
がする。安心するに足る家だといふ氣がす
る。喜んで生命を托するに足る氣がする。
永遠な住居だといふ氣がする。…小さいな
ら小さいままで、大きいなら大きいま
で、
どれもこれも土地の上に建つ
たといふよりは、土地の
中から生え上つたと言ひたい。

河井寛次郎「部落の總體」1944
『火の誓ひ』所収

本当の美は生まれるもので、
つくり出すものではない。

柳宗理「デザイン 柳宗理の作品と考え」1983

柳宗理

YANAGI Munemichi
1915-2011





藍 染



雑味

天然染料 | 純度5%



**SLOW +
PROCESS**



SLOW+
LIFE
PROCESSES

STEP #03

SLOW

物への用：実用性
心への用：美しさ

PROCESS

LIFE

雑味

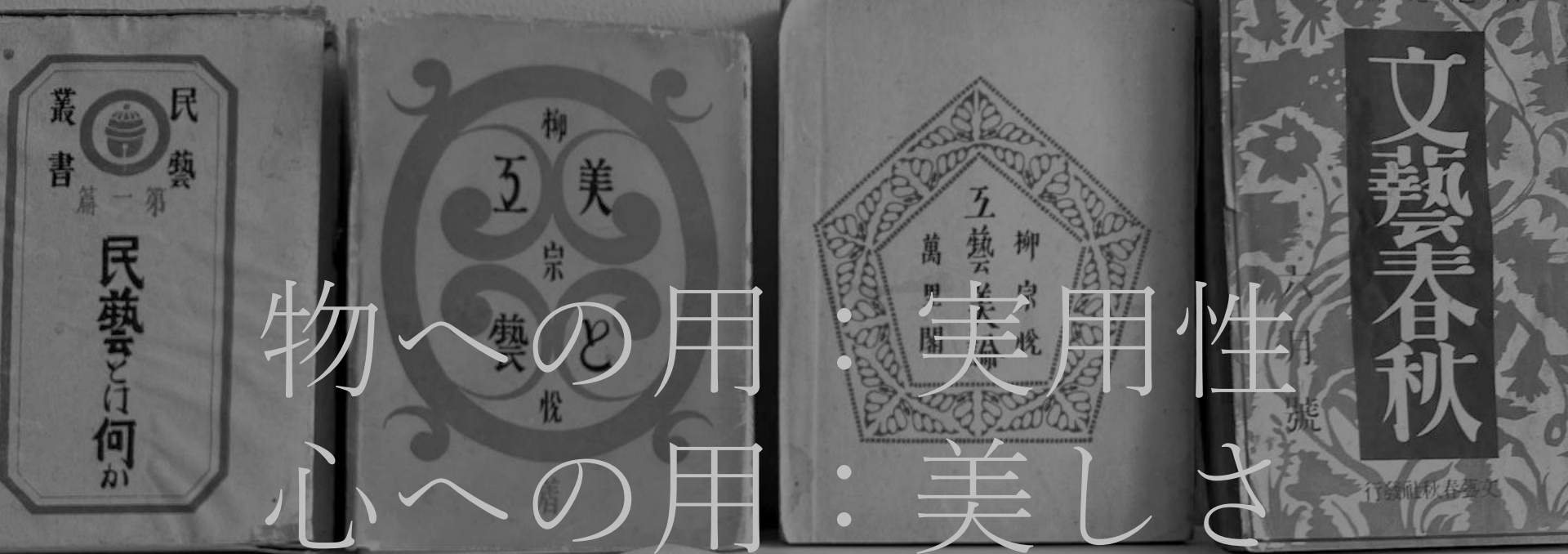
活ける生命

うるおい！

作られるので
はなく生れる

作るのではなく
生まれる

・・・ってどういうことだろう？



物への用：実用性
心への用：美しさ



全き用
美に先立つ
機能と美
完全生活

美しいものではあっても、美しいと言わない。
そう表現してはならないところにこの文化の
本質がある。

A black and white photograph of Taro Okamoto, a Japanese artist. He is shown from the chest up, wearing a light-colored, ribbed sweater. His hair is slicked back, and he has a serious, intense expression on his face. He is making expressive hand gestures with both hands, palms facing forward, fingers spread. The background is dark and indistinct, focusing attention on the artist.

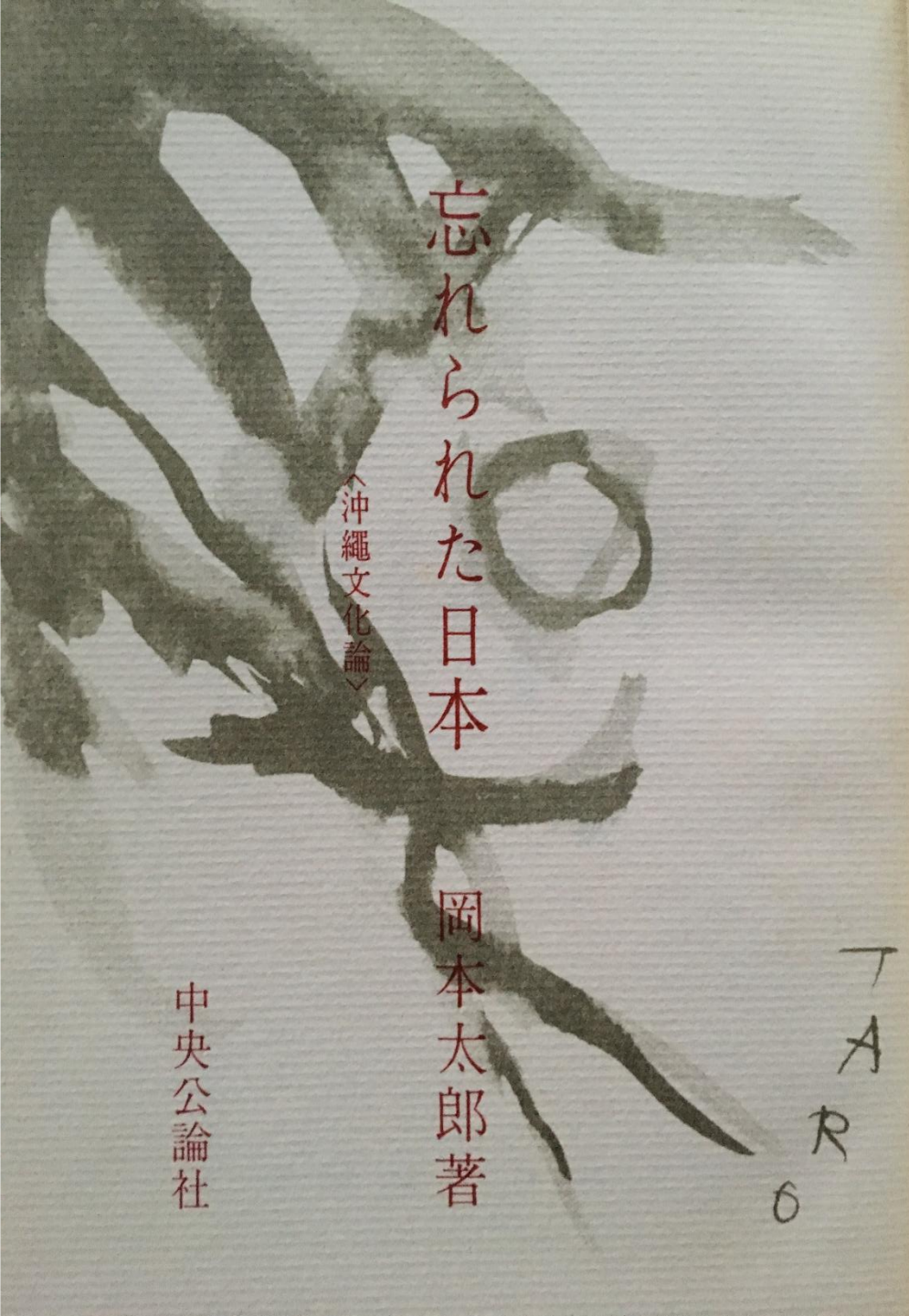
美しいものではあっても、美しいと言わない。
そう表現してはならないところにこの文化の
本質がある。

岡本太郎

Taro Okamoto
1911-1996

忘れられた日本

忘れられた日本
＜沖繩文化論＞
中央公論社 1961



忘れられた日本

＜沖繩文化論＞

岡本太郎著

中央公論社

T
A
R
O

美しいものではあっても、美しいと言わない。そう表現してはならないところにこの文化の本質がある。生活そのものとして、その流れる場の瞬間瞬間にしかないもの。そして美的価値だとか、凝視される対象になったとたん、その実体を喪失してしまうような、そこに私がつきとめたい **生命の感動** を見とるのだ。

さらに強調している。問題は石垣や裸足やクバ笠ではない。その美しさなんて、本質的にいってそんなもの、あろうがなからうが、どうでもいいことなのだ。

ただそれが媒体となり、それを通して直観し、感じとる、永劫——なまなましい時間と空間。

悠久に流れる生命の持続。

「『何もないことの』眩暈」
岡本太郎『忘れられた日本〈沖縄文化論〉』

そのもの
生活そのもの
として
流れる場
瞬間瞬間
の瞬間瞬間
しかないもの

断っておくが、私はなにもここで毛色の変った民族主義をとなえ、原始日本にかえれとっているのではない。今日、歴史は急速に前進するだけだ。世界はますます合理的に組織され、近代的にステレオタイプ化されるだろう。そういう拡大にともなって、一方にパティキュラーな条件、われわれのうちにある生活の初源的な感動は抑圧されてしまう。しかしそれは一種の孤独感として、われわれの内部に逆に深まり強まって行くにちがいない。

われわれが遠く捨て去り、
忘れてしまったはずの本来
の生活の肌理が、意識下の奥底に生きて
いる。一種のキョラカな呪術のように、われわれを縛りつづけるのだ。そしてそれが何らかの機会、たとえ
ば芸術の表現によってむき出しにされたとき、われわれは不意に、
言いようのない親近
感をおぼえる。それは生甲斐だからだ。

岡本太郎 『忘れられた日本（沖縄文化論）』

結語

こんなに凄いのかと興奮しました。感動しすぎて、“ああ、いいなあ”とそんな言葉しか出てこない。民藝は生活道具で、道具はまず使い勝手のよさがあり、そこに美しさが揃って合格だという感じがある。でも、僕は、ここにあるものを見て、その上に立ちのぼる何かを強く感じたんです。何かとは、愛着、えも言われぬ魅力。カッコよさやクールさは一切なく、あったかいものでした。

Design Meets Mingei
デザイナー深澤直人が日本民藝館の館長に就任。
深澤さん、
民藝はデザインですか？
『Casa BRUTUS』 vol.154 (2013)



大正6年（1917）、武者小路実篤邸にて
我孫子駅前プレート「我孫子市ゆかりの文化人」より





それは親しさの作品である。愛に憧れる作品である。それは人の心をいつも招いてゐる。人の情を待ちわびてゐる。どうして私はそれを音づれずにゐられよう。ここに私がある。私はいつも心に囁くのである。∴私は朝鮮の藝術よりも、より親しげな美しさを持つ作品を、他に知る場合がない。それは情の美しさが産んだ藝術である。

「親しむ」Intimacyそのものが、
その美の本質だと私は想ふ。

「朝鮮の友に贈る書」一九二〇
『朝鮮とその藝術』所収

だが工藝の世界はそうではない。吾々に近づけば近づく程その美は濫い。日々共に暮す身であるから、離れ難いのが性情である。高く位するのではなく、近く親しむのである。かくて「親しさ」が工藝の美の本質である。器を識る者は、必ずそれに手を觸れるではないか。両手にそれを抱き上げるではないか。親しめば親しむ程、側を離さないではないか。あの茶人達は如何に濫かさとして、それを唇に當てたであらう。器にも亦かゝる主を離さじとする風情が見える。その美が深ければ深い程、私達との隔りは少ない。よき器は愛を誘ふ。

「工藝の美」一九二七
柳宗悦『工藝の道』所収

工藝の道

柳宗悦著

そざりてあ刊





日本民藝 美術館設

立趣意書

民藝の美には自然の美が活き國民の生命が映る。而も工藝

の美は親しさの美であり潤ひの美である。凡てが作爲に傷つき、病弱に流れ情愛が涸死して來

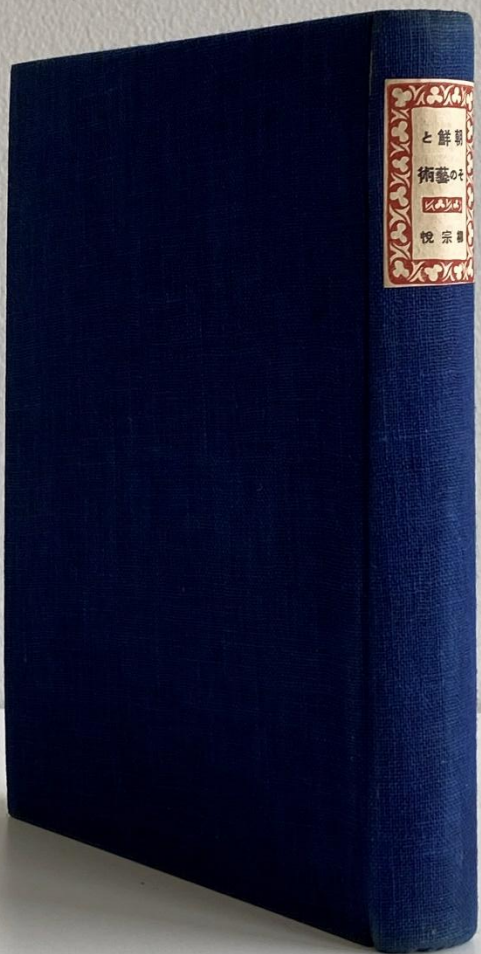
た今日、吾々は再び是等の正しい美を味ふ事に、感激を覺えな
いであらうか。美が自然から發する時、美が民衆に交る時、そ
うしてそれが日常の友となる時、それを正しい時代であると誰
か云ひ得ないであらう。私達は過去に於てそれがあつた事を示
し、未來に於てもあり得べき事を示す爲に、此「日本民藝美術
館」の仕事を出發させる。

日本民藝美術館設立趣意書 趣旨一九二六

美術館設

立趣意書

うるおい！



そこ「朝鮮」では自然すらも寂しげに見える。峰は細く樹はまばらに花はあせてゐる。地は乾き、ものは潤ほされず、室は暗く、人は少ない。藝術に心を託す時、彼等は何事を訴へ得たであらう。音に強い調もなく、色に楽しい光もない。只感情に溢れ涙に充ちる心がある。現はされた美は哀傷の美である。 **悲みのみが悲みを慰めてくれる。悲しき美が彼等の親しげな友であつた。藝術にのみ** 彼等は心を打ち明ける事が出来る。

悲し 愛

二相のこの世は悲しみに満ちる。そこを逃れることが出来ないのが命数である。だが悲しみを悲しむ心とは何なのであらうか。悲しさは共に悲しむ者がある時、ぬくもりを覚える。悲しむことは温めることである。悲しみを慰めるものはまた悲しみの情ではなかつたか。悲しみは慈みでありまた「愛しみ」である。…古語では「愛し」を「かなし」と読み、更に「美し」といふ文字さへ「かなし」と讀んだ。

いとほし〔勞(勞)〕

相手がつらく苦しいであろうと思いやって、見かねる気持ちをいう。「厭(いと)はし」と同根の語。自分の受ける苦痛に対していうこともあるが、人に対しては気の毒に思う意をあらわす。

〔字類抄前田本〕に「憐イトオシ」とみえる。〔記、雄略〕に「愛悲(いとほし)」のような例もあるが、上代の表記では、勞が常訓の字である。

『字訓 普及版』(平凡社一九九五)

いとおし・い

〔文語形〕いとほ・し(動詞「いとふ」から

派生した形容詞) 苦痛や苦惱で心身を悩ますさまを表わす。

- ①自分にとって面白くないと思う心情を表わす。つらい。困る。いやだ。
- ②他人に対する同情の心を表わす。かわいそうだ。ふびんだ。気の毒だ。
- ③弱小なものへの保護的な愛情を表わす。かわいらしい。いじらしい。いとしい。

〔語誌〕(1)「いたはし」の母音交替形と考えられているが、平安時代になって多用され、「いたはし」とも併用されている。その「いたはし」は、「いたはり・いたはる」が富を背景とした物質的な待遇を表わすのに応じて対象を価値あるものとして認め、大切にしようとするのに対して、「いとほし」は、あくまでも精神的な思いやりとして表現されるが、和歌には用いられない。(2)中世から近世初期ころに、ハ行音転呼によってイトヲシとなり、さらに長音化してイトーシと発音され、いじらしい・いとしいの意が強くなって、イトシとなった。

『日本語大辞典 第二版』(小学館二〇〇〇)

勞 愛

[u] a situation in which you have a close relationship or sexual relationship with someone

[c] things that are said or done only by people who have a close relationship with each other

Cambridge Advanced Learner's Dictionary

INTIMACY

生命的
共感

intimacy

- ① 不可算名詞 親密, 親交; 親友關係 [with]
 - ② a. 不可算名詞 (異性との)肉体關係, 情交, ねんごろな間柄.
b. 可算名詞 [しばしば複数形で] 親密を示す行為 《抱擁・キスなど》.
- ★【用法】 ② の意味に用いられることが多いので注意が必要

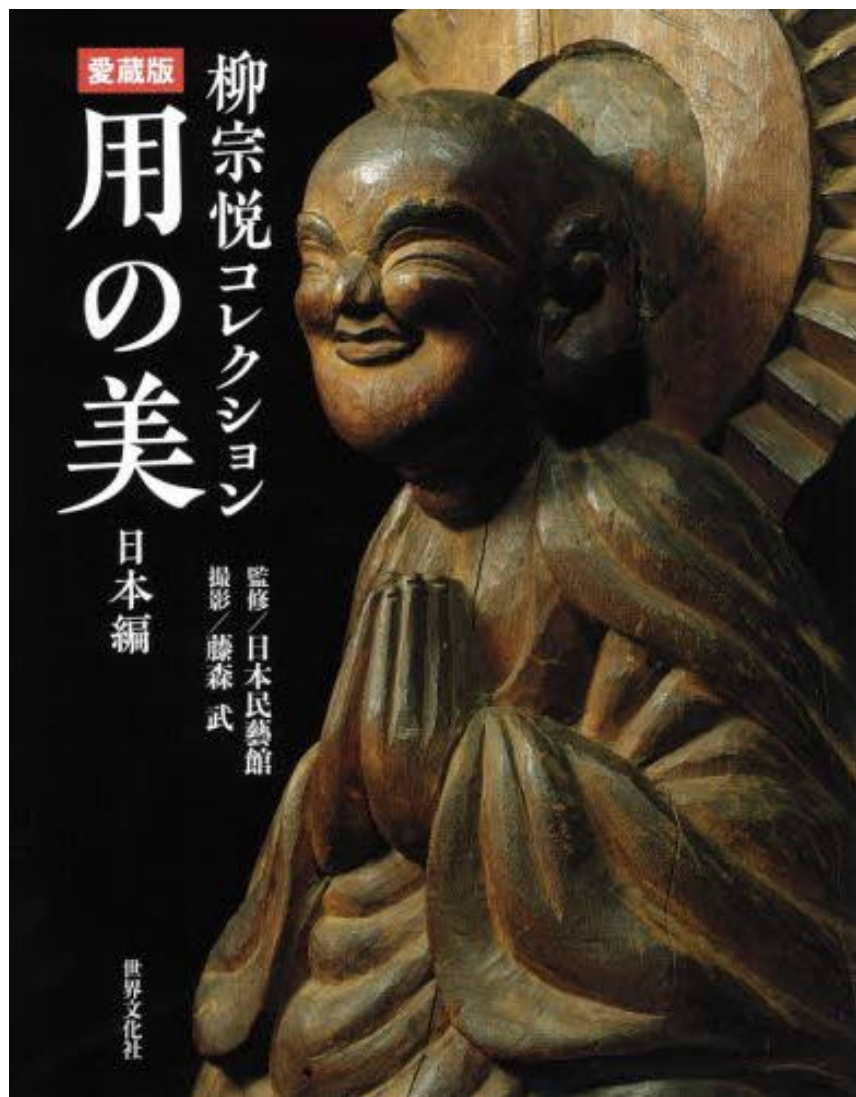
『新英和辞典』 (研究社)

作られるのではなく
生まれる

使われるのではなく
生きられる

用

に即した



美

しいもの

用

愛



に即した

しいもの



刺子
たび
足袋

たぶし



民藝のインティマシー
「いとおしさ」をデザインする
明治大学出版会 2015



叢書
“ポッシュ”
第3弾!

民藝の価値は、「美しさ」から「インティマシー(いとおしさ)」へ。「インティマシー(いとおしさ)」をデザインすることで、民藝の時代背景を洗い直すことで、新しい「ふつう」が見えてくる。

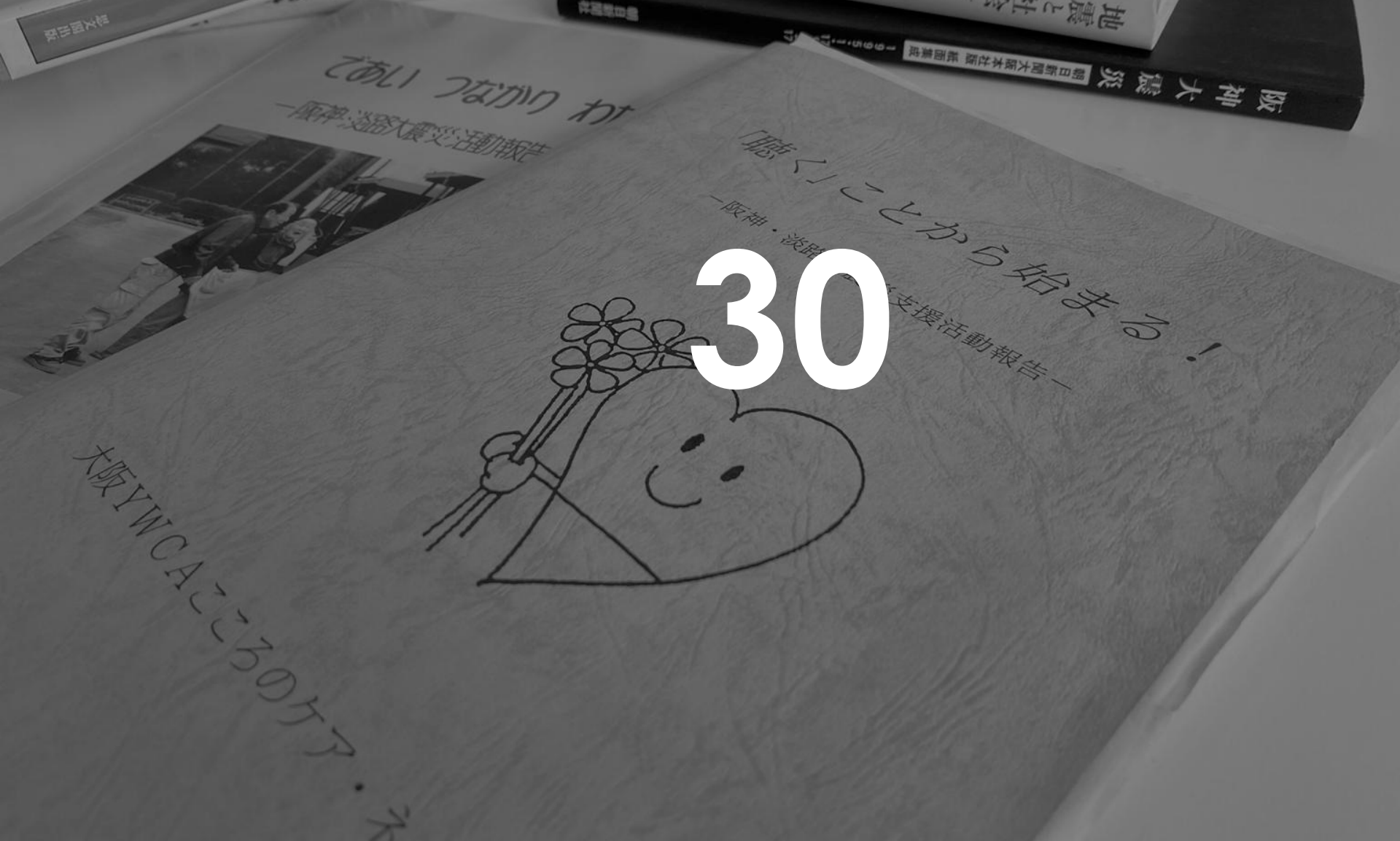
明治大学出版会



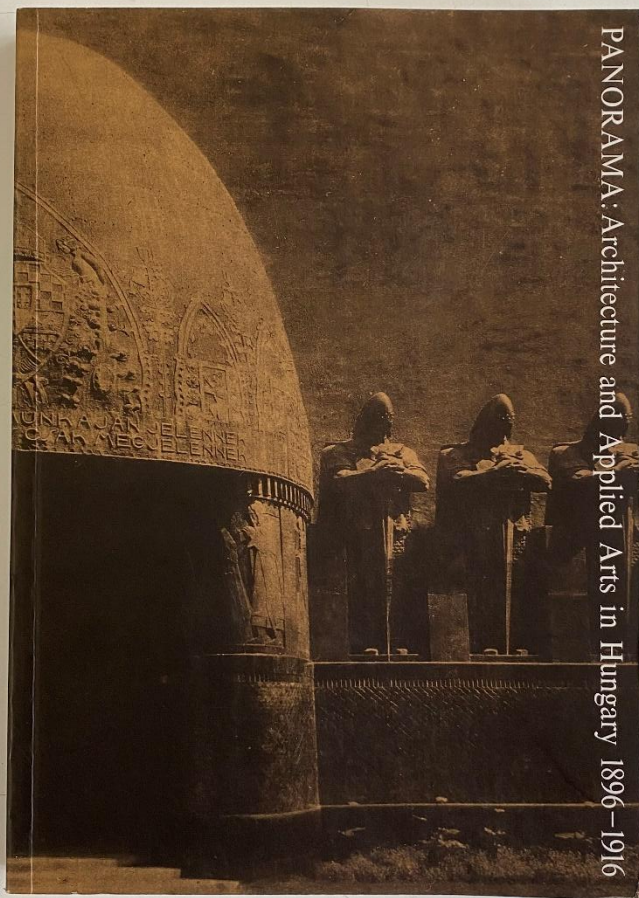
「いまなぜ民藝か」という問いの答えは、こんなふうにいえるでしょう。民藝の中には美しさでは尽きない、いとおしさという別の価値の「芽」がひそんでおり、その芽を育てていくところがいまの、そしてこれからの社会と暮らしのあり方を考える重要な手がかりになる。だからこそ、いま民藝なのだ、と。

プロローグ「民藝をめぐる旅」

民
100
藝
藝



30



30

PANORAMA

Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916

ドナウの夢と幻想

ハンガリーの建築と応用美術

京都展：京都国立近代美術館

1995年9月5日-10月22日

東京展：東京国立近代美術館

1996年1月6日-02月12日

主催

京都国立近代美術館

東京国立近代美術館

後援

ハンガリー大使館

A vintage treadle sewing machine is positioned on the left side of a wooden table. The machine is dark-colored with a large hand wheel and a treadle. A piece of dark fabric is draped across the table in front of the machine. The background is a plain, light-colored wall.

kurata@meiji.ac.jp
<http://takashikurata.com>